

〔巻頭言〕

日本流体力学会中部支部設立のご報告

名古屋大学 金田 行雄†

日本流体力学会では、各地域での活動を活性化するために各地区に支部を作り、流体力学の研究者や技術者の交流の裾野を広げ、ひいては学会全体としてのよりいっそうの活性化も図ることが考えられています。このたびその先陣を切って、中部支部が設立されましたのでご報告いたします。

本中部支部は、日本流体力学理事会における検討の結果、今年度(平成15年度)の理事会(支部設立担当:武田靖,中村佳朗の両理事)でその設立が認められました。支部規則案作成などの準備は中村理事,酒井康彦,長谷川達也各氏と金田(いずれも名古屋大学)の4人で構成する設立準備委員会が担当し,この3月23日,設立総会によって正式に支部が発足しました。またそこで,支部長(金田),副支部長(中村佳朗氏)の他,幹事16名(大学,企業からそれぞれ,12名,4名),監事2名,顧問1名が選出されました。

なお,その設立総会にさきがけて,12月12日(金)午後には設立記念式典が開かれ,中村中部支部設立担当理事と日本流体力学会会長池田駿介先生のご挨拶(写真)につづき,来賓として名古屋大学工学研究科長平野眞一先生(4月から名古屋大学総長),そして本支部の設立に会長当時からご尽力いただいた長野靖尚先生からも激励の言葉を頂きました。また,その式典のあと,小林敏雄(日本自動車研究所所長,東京大学名誉教授),佐藤幸治(トヨタ自動車),林賢吾(三菱重工業)の3人の先生による記念講演会,引き続き設立記念パーティーも催されました。さらに翌日(13日)には,学生や若手研究者を中心とした,学術講演会が開かれ17件の学術発表がありました。



日本流体力学会ではその会員数の増加に伴い,これまでのいわゆるゲマインシャフト的共同体の枠を超えたゲゼルシャフト的側面も必要になってきつつあるように思われます。会員数が増えても,前者の共同体的なよさを残しつつ,学会をより身近なものにするため,この支部設立が貢献できればよいと考えています。幸い中部地区は,最近元気がよいといわれ,全国的にも有数の産業集積度を持ち,また強い流体力学の伝統をもっています。本支部設立によって,大学,産業界,研究所などで流体力学の研究や応用に携わっている研究者,技術者,学生との最先端の情報交換や活発な交流が促進されることが期待されます。なおついでながら,本支部の設立にときたま符合して,平成16年度は流体力学会年次大会が名古屋で開かれます。奮ってご参加ください。

学会支部の設立は,日本流体力学会にとって初めてであるだけでなく,当事者の私たちにとっても初めてのことです。前例がなく不慣れなため,何かと不十分な対応や,誤りも多々あると思われませんが,今後ともどうか本中部支部への皆様のあたたかいご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

(日本流体力学会 第1期中部支部長,

平成16年3月末日記)

†E-mail: kaneda@cse.nagoya-u.ac.jp